

誰もが助かる レジリエントな 地域社会づくり を考える

— 新型コロナ禍の地方大学の役割 —

zoom
配信

参加
無料

申込
不要

2022
3.2 wed
17:30-20:30

新型コロナ感染拡大によるパンデミックでは、国境をまたぐ自由な移動をベースとした経済のグローバル化やグローバル化による経済的格差の拡大によって感染リスクに差が生まれました。特に女性、性的マイノリティ、子ども、非正規雇用、貧困地区の住民など、一部の属性を有する人々に被害が大きく、災害や疫病に関する史実をみると、特に疫病に対しては感染が広がった脆弱な地域については、隔離や排除、集団移住、時には集団虐殺などで感染症を食い止めてきた歴史があります。本フォーラムは、誰もが助かるレジリエント（柔軟性、回復力のある）な地域社会づくりを目指し、地方に位置する三大学の取り組みを振り返り、地方大学の役割を再考することを目的に開催します。

プログラム

1.開会の挨拶

2.調査研究報告(各20分)

- ①田中 則雄(島根大学法文学部・教授)「災禍を後世に語り継ぐことの意味 ー近世山陰の飢饉に即してー」
- ②岩崎 克則(三重大学人文学部・准教授)「コロナ禍の中の生活と雇用」
- ③宮本 恭子(島根大学法文学部・教授)「データから見えてくる子ども・若者の生きづらさ ～島根の子どもの貧困対策～」
- ④足立 匡基(弘前大学医学部心理支援科学科・准教授)
「COVID-19パンデミック下における子どものメンタルヘルス-児童思春期前向きコホート調査から考えるエビデンスに基づく支援の必要性-」
- ⑤李 永俊(弘前大学人文社会科学部・教授)「大学・学生と地域が協働して地域と子どもを守る」

3.パネルディスカッション

■コーディネーター:豊福 裕二(三重大学人文学部・教授) ■パネラー:田中 則雄(島根大学法文学部・教授)・岩崎 克則(三重大学人文学部・准教授)
宮本 恭子(島根大学法文学部・教授)・足立 匡基(弘前大学医学部心理支援科学科・准教授)・李 永俊(弘前大学人文社会科学部・教授)

参加
方法

お使いのメディアに「zoom」アプリケーションのインストールが必要になります。

ミーティングID:248 186 4809/パスコード:393198 サインアップ・ダウンロード▶



[対象] 一般・行政関係者・学生・関係者 [対面会場(登壇者のみ)] 弘前大学人文社会科学部4階多目的ホール

[お問合せ] 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター(朴) 青森県弘前市文京町1 E-mail:irrc@hirosaki-u.ac.jp

TEL.0172-39-3198 (平日10:15~17:00)

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

検索